

from M

創刊号

郷土史資料室・きしわだ自然資料館

平成 12 年 9 月 1 日

発刊のことは

郷土史資料室
きしわだ自然資料館

岸和田市には、郷土資料館、きしわだ自然資料館、二つの博物館施設があります。だんじり会館も広い意味では博物館の仲間です。これらの施設ではそれぞれ、歴史や古い美術工芸資料、きしわだの山地、里山・里地、川や海の自然の姿や植物・動物・地質・化石などの標本、そして、岸和田のだんじり祭りの資料やその歴史、お祭りの様子などを展示しています。資料の収集や研究・調査も行っています。

ところで、一般に博物館はこれまで、展示をみてもらいその中からいろいろなことを学び取ってもらうことに力を注いできました。親しみやすい展示、おもしろく飽きのこない展示、易しい解説に工夫を凝らしているのはそのためです。学校教育に役立つようにと、展示を見ながらその中から答えを見つけるようにしたワークブックやワークシートを作成したりもしています。しかし、このような学習は知識を増やし、物事を理解させるには役立ちますが、ほんとうに知ることには、やはりほど遠いものがあります。日常生活の中での参加体験がなくてはなりません。

先生方と子供たちとの日常のふれあいの中でこそ、自分たちの生活が昔から今につながっている歴史性、身の回りの自然との関わりや自然の大切さ、われわれ人間や生物の命にとって環境とは何か、等々、総合的な参加体験学習が可能だと考えています。博物館は「歴史の散歩道」、「自然への入り口」なのです。

そこで、私たちは考えました、どうすれば先生方のお手伝いができるか。さいわい私たちのもとには自然や歴史、考古に関連した資料が日常的な収集活動によって蓄えられています。関連情報が次々と入ってきます。ボランティアとして専門分野で支援してくださる方々もおられます。こうした『博物館の財産』を学校教育やPTA活動に役立ててもらうために、この季刊紙【from M】を発行することにしました。【from M】では、

博物館のもつ情報を季節ごとに発信します。

博物館の行事についてお知らせします。

博物館の展示や資料について解説します

博物館の調査・研究についてお知らせします。

岸和田の自然や考古、歴史、民俗について解説します。

先生方からの Q & A、先生方から寄せられた情報をお知らせします。

先生方の寄稿・ご意見も掲載します。

【from M】は毎号、岸和田の先生全員に 1 部ずつお届けします。今年度より年 4 回（季刊）発行する予定です。先生方の総合学習の資料として、また、先生方と博物館がより密接に、親しくなるために役立ててください。

また、博物館では、自然、歴史などの分野で先生方のご相談に応じたり、先生方のお手伝いに出かけることも考えています。ご利用ください。

（千地万造 きしわだ自然資料館館長）

みぢかなしぜんとしたしむ 第1回 植物標本の作り方

「植物標本」と言うと、一般的には押し葉標本を指します。「標本」というと難しい感じがしますが、押し葉標本を作るのは一部の種類を除けばそれほど難しいものではありません。植物というと、様々な種類があり、コケや海藻も植物ですが、これらの植物は少し例外的な処理をしなければなりませんので、今回はより身近な種子植物を対象に話を進めていきたいと思います。

1. 標本の作り方

簡単に手順を説明していきます。

収集した植物を形が崩れないように丁寧に袋から取り出し、新聞紙に挟みます。その際、新聞紙に直接黒マジックなどで植物名、採集場所、最終日をメモ書きしておきます。

新聞紙を閉じ、その上に吸収紙をのせます。

植物はたくさんの水分を含んでいます。それを吸水するために、吸収紙を使います。吸収紙はラシャ紙様の厚手の紙が適当ですが、代わりに新聞紙を間に挟んでも全く問題ありません。

の作業を繰り返し、新聞紙を重ねていきます。

最後に新聞紙の束の上に押し板をのせ、押し板の上に重しをのせます。

押し板を置くのは、新聞紙全体に均等に重みをかけるためです。重しは漬け物石くらいの重みのあるものの方がいいと思います。重しが不十分な場合、しわなどがつきやすくなります。

翌日、新聞紙を広げてみて、折れた葉やしわのよったものなどを直します。葉の裏と表の両方が見えるように数枚の葉の葉柄をねじっておきます。同時に吸収紙も交換していきます。

押し葉標本にとって最も大事なものはこの時期（押し葉を始めた翌日～2, 3日）です。押し葉の「くせ直し」ができるのは、この時期だけです。植物体が乾ききってから直そうとすると、折れ目がついてしまったり、葉が崩れたりすることがあります。

植物体から水が多量にしみ出てくるのもこの時期ですから、1日2回ずつくらい吸収紙を交換した方がいいかもしれません。乾いてくると、交換は1日おき、2日おきにしても問題なくなります。

押し葉が完全に乾いたら、上質紙など（堅めの台紙）に貼り付けます。

台紙の中心に押し葉を置いて、標本の位置がずれないようにのり紙で貼り付けます（のり紙は7～10枚程度が適当）。のり紙には和紙にのりをつけたものを使うのがいいですが、面倒な場合には、紙テープを使うか、粘着性のあるラベルを短冊形



↑ 標本にしたときに、後で葉裏も見ることのできるように、新聞に挟むとき、葉のうち数枚は裏を向けておく。

に切ったものなどが便利でしょう。同時に学名、和名、科名、産地、採集年月日、採集者名、備考等を書いたラベルを作って標本に貼っておきます。これで標本は完成です。

2. 基本的な注意点

植物の標本づくりで大切なのは、標本づくりそのものよりも、植物を採集するときにあると思います。植物はそれぞれ葉のつき方や形、毛の有無など特徴を持っています。それらが種類を同定するポイントになります。標本は名前が分からなければ意味がありませんから、そうした特徴を失わないように植物の採集を心がけねばなりません。葉を1枚とったといっても、葉が対生なのか互生なのかということが分からなければ、種類の判別が出来ないといった例もあります。実や花がついたものをできるだけ選び選ぶことも重要です。

また、種類の同定はできる限り、早く行うことをおすすめします。きれいな押し葉標本ができたと言っても、その姿は自然の中で生きている植物とは違ってきます。花の色などはすぐに変化してしまう場合がありますし、手触りも少しずつ変わっていく場合があります。時間が経てば経つほど、自然の中の植物とはイメージが変わってきて、同定も困難になると思います。

また、スキャナーを使って、とってきたばかりの植物体を「押し葉画像」として取り込んだり、植物写真を撮っておいたりしておけば、後でとってきたばかりの植物のイメージを思い出しやすいでしょう。これらを押し葉標本と組み合わせて整理しておけば、より植物を覚えやすくなると思います。植物採集、標本づくりも楽しくなるにちがいありません。

村上健太郎 きしわだ自然資料館学芸員

史跡めぐり

防潮石垣(中町)



中町の児童公園の傍らに、幅約10m、高さ約2mほどの石垣が残されています。これは江戸時代の初め、岸和田藩主松平康重の時に、城郭の整備を命じ、築かれた石垣の一部です。この石垣は防潮堤として、また海岸付近の防備のために築かれたと考えられます。

ある史料によりますと、岡部氏が入城するまでは岸和田城の二の丸付近まで海水が入り込み、次第に海岸線が後退していったと記されていますが、

実際には16世紀末、豊臣秀吉の時代には今の本町付近に民家が建ち並び、岸和田の城下町が形成されていました。かつては、堺町から本町に至る岸和田城下の海岸線に沿って総延長約800mほどの規模のものでしたが、明治維新後に大部分が破壊され、今ではここにわずかな名残を留めるのみです。

郷土資料館の資料から

これは春木村の庄屋が、元治元(1864)年、公務に関する諸事を書きとめた「万留帳(よろずとめちょう)」の1ページです。ここには英国ロンドンのビールびんのラベルが貼られています。この年8月、英米仏蘭4カ国の艦隊が下関を砲撃(四国艦隊下関砲撃事件)した後、大阪湾に現れ、英国艦隊の乗員が海中に投棄したビールびんを春木の漁民が拾い上げて庄屋に届け、さらに庄屋から藩に報告されたものです。ビール瓶を「徳利」と記し、また、ラベルに書かれた“LONDON”を「ロンドン・イギリスノ都トイフ」と注記するなど、庶民の間でも外国に対する知識がかなり一般化していたことがわかります。



山中吾朗 郷土史資料室学芸員

● 博物館からのお知らせ ●

岸和田市立郷土資料館

開館 30 周年記念 館蔵名品展

岸和田市立郷土資料館は昭和 45 年 5 月 25 日に開館し、今年 30 周年を迎えました。この間、特別展や企画展を開催する一方、資料収集に努め、現在館蔵資料は約 25000 点にのぼっています。今回はその中から特に美術工芸資料の優品を選んで展示いたしました。

期間 平成 12 年 7 月 27 日～10 月 1 日

場所 天守閣 1 階および 2 階展示室

主な展示品

- ・小川翠村筆 金地着色 春秋 6 曲 1 双
- ・岡部長景所用 樹下人物図堆朱筆筭及び落款



↑ 池大雅・福原五岳筆 紙本墨画墨書
高士図 6 曲 1 双

ほか約 25 点

入場料 おとな 200 円 小人 100 円

(天守閣・資料館共通)

開館時間 午前 10 時～午後 5 時(入場 4 時迄)

*ただし 9 月 15 日は午後 1 時より

開館

休館日 毎週月曜日

きしわだ自然資料館

秋季特別展「里山昆虫記」

最近、いろいろな観点から注目されている自然環境「里山(さとやま)」。今回は、大阪南部の里山を中心として、そこに生息する昆虫と、環境について紹介する。おなじみカブトムシ、クワガタムシから知られざる昆虫まで多数展示予定です。

主催 岸和田市教育委員会

きしわだ自然資料館

日時 10 月 17 日～12 月 24 日

10 時～17 時(入館は 16 時まで)

休館日 毎週月曜日 月末日

料金 おとな 400 円 小中学生 200 円

* 特別展開催時以外は、おとな 200 円、小中学生 100 円です。



ご意見・ご感想を お待ちしております！

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100

FAX (0724)23-8101

Email: knature2@sensyu.ne.jp

k-nature@sensyu.ne.jp